

2021年卒
Vol. 3

1月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果 (2020年1月発行)

3月の就職活動本番を2カ月後に控えた1月1日時点で、2021年卒学生の準備状況はどこまで進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。過去の同時期調査の結果と比較しながら、変化にも着目して分析したい。

1. 就職活動準備状況

- 「自己分析」「業界研究」「企業研究」は増加傾向。準備のタイミングが早期化
- 就活準備イベントへの参加経験者は91.6%。参加回数は平均5.5回で、年々増加

2. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多(92.4%)。「各企業のホームページ(採用サイト)」が続く

3. インターンシップ参加状況と参加企業からのアプローチ

- 参加経験を持つ学生は約9割(88.9%)。「今後も参加したい」が8割超(83.6%)
- インターンシップ参加後に企業からアプローチを受けた学生は9割(90.2%)

4. 現時点の志望業界

- 「明確に決まっている」29.5%。前年同期を3.9ポイント上回る
- 志望業界1位「インターネットサービス」、2位「情報処理・ソフトウェア」

5. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「将来性がある」49.0%、「給与・待遇が良い」43.6%、「福利厚生が充実」31.8%の順
- 大きな変化がない中で「仕事内容が魅力的」の低下が目立つ(20.6%→16.2%)

6. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」35.2%。受験社数は平均2.4社。7割超がインターンシップ参加企業
- 「内定を得た」7.0%。前年同期(4.7%)より2.3ポイント上昇

7. 就職活動解禁までの準備の進め方

- 「志望業界・企業への理解を深める」60.7%、「インターンシップにたくさん参加」57.6%

8. 就職後のキャリアプラン

- 「転職でキャリア・アップ」が過去最高(44.0%)で、「一つの会社に定年まで」と同水準に

調査概要

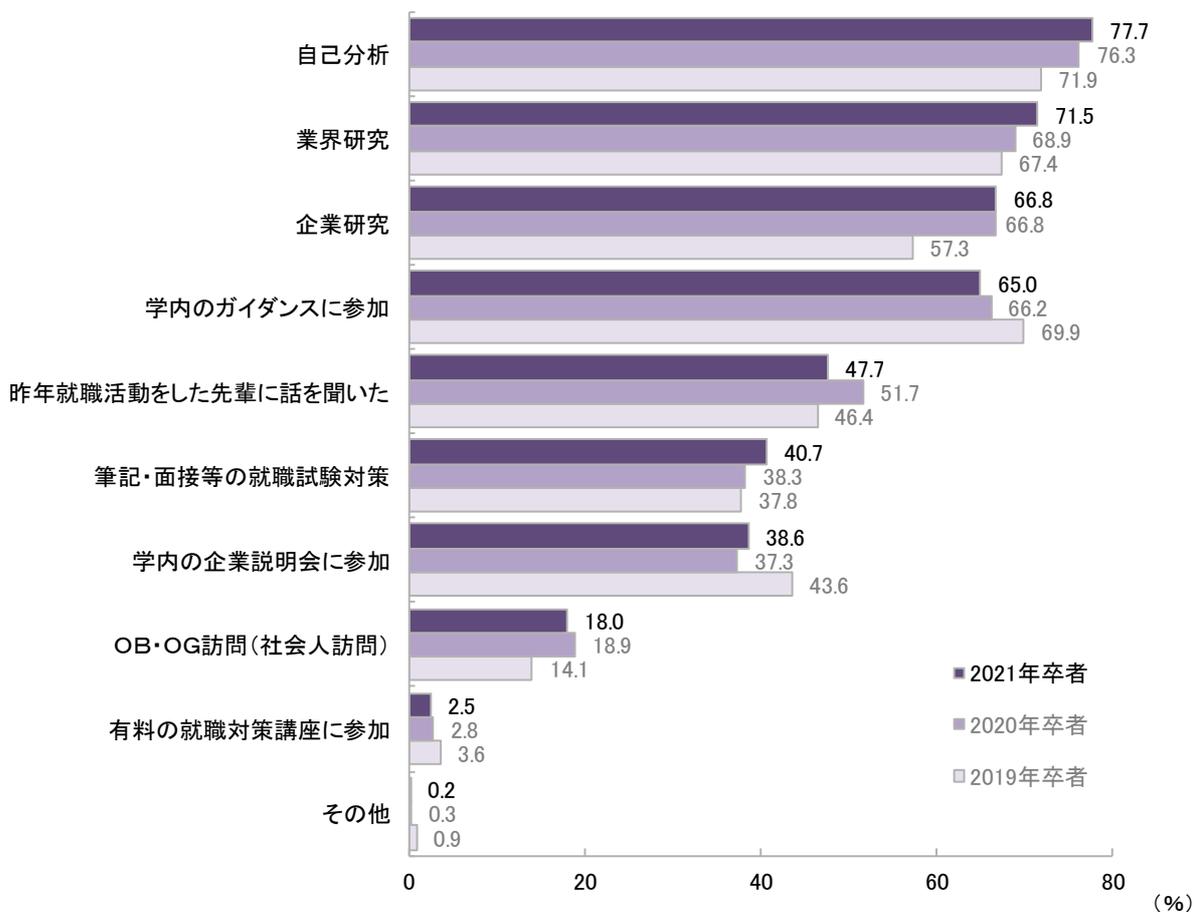
- 調査対象：2021年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
 回答者数：1,248人（文系男子410人、文系女子363人、理系男子332人、理系女子143人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2020年1月1日～7日
 サンプルング：キャリアス就活2021学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

1. 就職活動準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で 77.7%、次いで「業界研究」が 71.5%で続く。上位の 3 項目「自己分析」、「業界研究」、「企業研究」はこの 3 カ年で増加傾向が見られる。

また、1 月 1 日時点の就活準備イベントへの参加経験率は 91.6%と年々増加している。参加回数は平均 5.5 回で、こちらもこの 3 カ年で最も多く、就活準備イベントは学生にとって就職活動を本格的にスタートするにあたり必須のイベントとなっている様子がわかる。

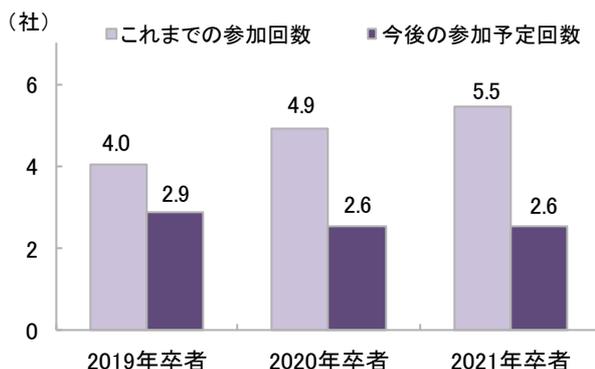
＜就職活動準備でこれまでに行ったこと＞



＜就活準備イベント参加経験＞



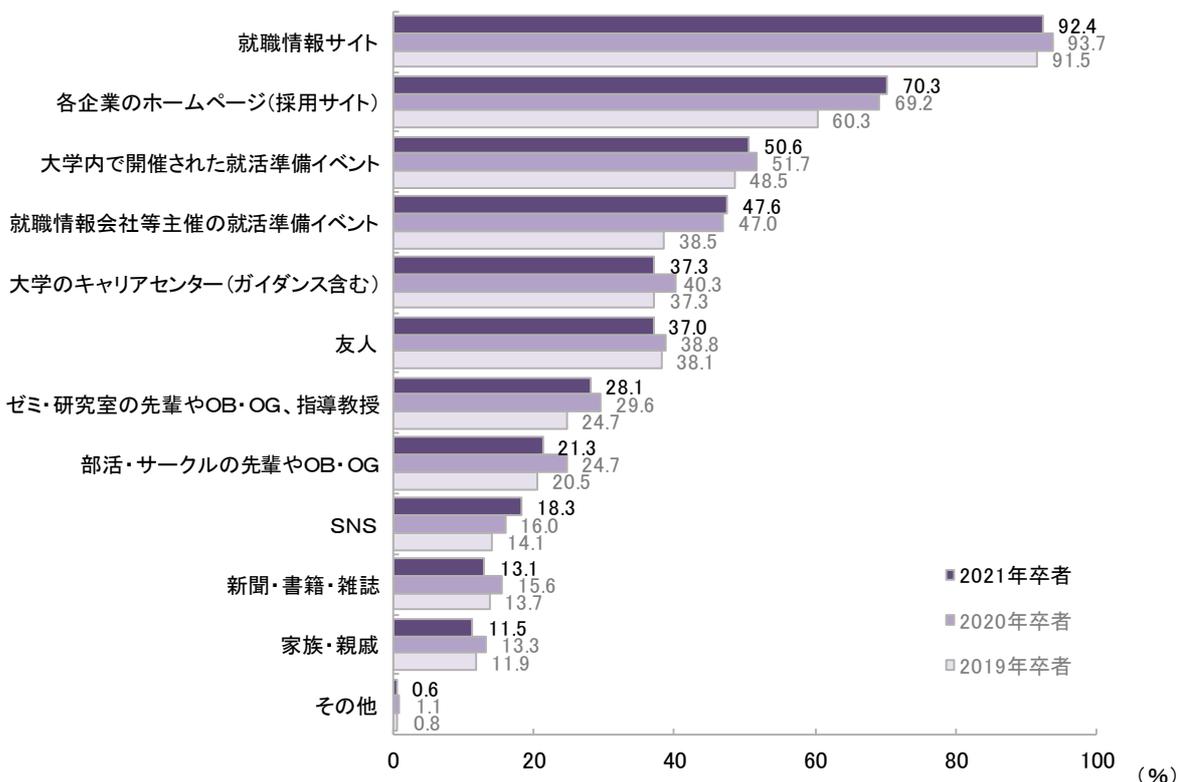
＜就活準備イベント参加回数＞



2. 就職活動に関する情報の入手先

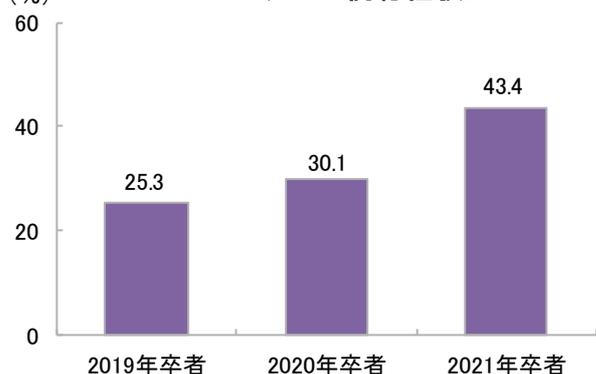
就職活動に関する情報の入手先を尋ねたところ、最も多いのは「就職情報サイト」で 9 割を超えている (92.4%)。次いで「各企業のホームページ (採用サイト)」が続く (70.3%)。採用サイトに関しては 3 カ年で 10 ポイントの増加が見られるが、インターンシップの情報収集や企業研究に用いているのだろう。

＜就職活動に関する情報の入手先＞

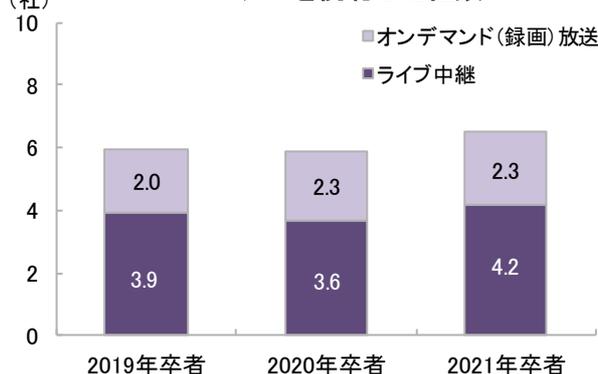


WEB セミナーの視聴経験を持つ学生は 43.4% で、前年 (30.1%) を 13.3 ポイント上回った。平均視聴社数は、ライブ中継が 4.2 社、オンデマンド (録画) 放送が 2.3 社。前年に比べライブ中継の視聴が伸びている。WEB セミナーの視聴経験を地域別に見ると、関東が 39.4% であるのに対し、中国・四国 (53.1%)、北海道 (48.2%) など地方学生の利用が高い傾向。移動の費用や時間を大きく削減できるものとして WEB セミナーを活用していると思われる。

＜WEBセミナーの視聴経験＞



＜WEBセミナーを視聴した社数＞



3. インターンシップ参加状況と参加企業からのアプローチ

インターンシップの参加経験や参加したプログラム日数を尋ね、3カ年分のデータを比較した。

調査時点でインターンシップの参加経験を持つ学生は約9割(88.9%)。参加期間(プログラム日数)ごとに参加状況を見ると、最も多いのは「1日以内」で8割を超える(83.7%)。インターンシップ参加経験者のほとんどが「1日以内」のプログラムへの参加経験を持つ計算だ。「2~4日間」は約半数(47.7%)。「5日以上」は34.9%で、いずれも前年同期調査と同水準。

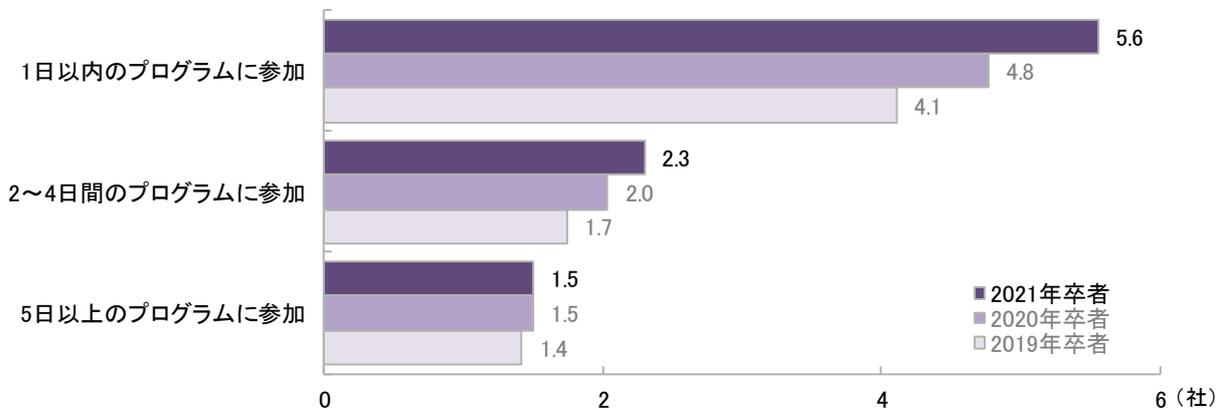
平均参加社数を見ると、最も多いのは「1日以内」(5.6社)で、前年より0.8社増、前々年からは1.5社と大幅に増加。「2~4日間」(2.3社)も年々増加している。参加率は前年から変化はないものの、短期開催のものを中心にインターンシップへの参加がさらに拡大したことが読み取れる。

また、今後開催されるインターンシップについては、「参加したい」が8割を超え(83.6%)、大半の学生が参加意向を示した。参加したいと考える社数は5.9社。3月の就職活動解禁までに、インターンシップを通じて、企業研究や選考準備を進めたい学生の意向がうかがえる。

<プログラム日数別参加状況>

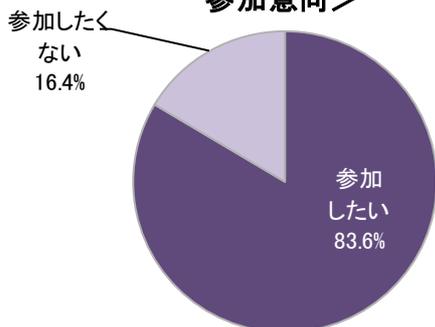
	(%)						
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(2020年卒者)	(2019年卒者)
1日以内のプログラムに参加	83.7	80.5	87.1	81.3	90.2	84.5	73.2
2~4日間のプログラムに参加	47.7	52.0	50.1	42.8	40.6	50.2	36.8
5日以上プログラムに参加	34.9	32.0	33.1	41.3	32.9	36.1	38.1

<プログラム日数別参加社数>

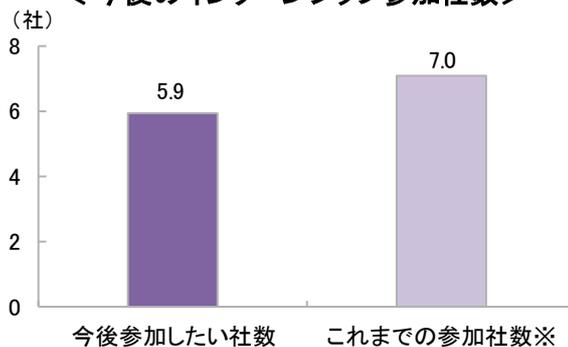


※それぞれ参加経験者の平均

<今後のインターンシップ参加意向>



<今後のインターンシップ参加社数>

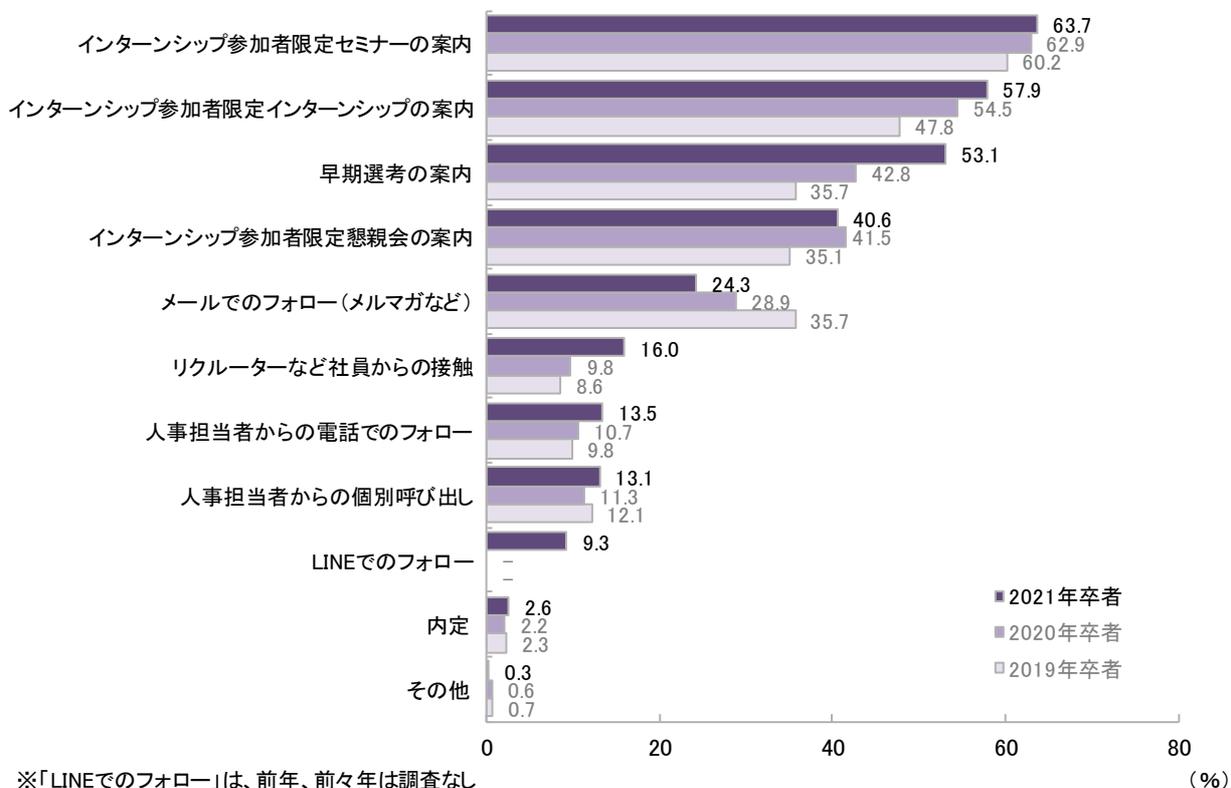


※インターンシップ経験者全体を分母に算出

インターンシップ参加経験を持つ学生 (全体の 88.9%) を対象に、インターンシップ参加後に企業からアプローチを受けたかを尋ねたところ、「アプローチを受けた」学生は 9 割に達した (90.2%)。前年調査より 4.2 ポイント増加。大半の学生が何らかのアプローチを受けており、インターンシップ参加者へのアプローチも一般化してきたと言える。

加えてどのようなアプローチを受けたかを尋ねると、「インターンシップ参加者限定セミナーの案内」が最も多く、6 割強 (63.7%)。「インターンシップ参加者限定インターンシップの案内」(57.9%) が続く。3 番目に多い「早期選考の案内」は前年調査から 10.3 ポイント増加し、半数を超えた (53.1%)。一方、「メールでのフォロー」は減少傾向。より直接的な接触を図るアプローチが増加しており、インターンシップ後にも継続的に接触機会を設けることで、参加者を囲い込んで採用につなげようという企業の狙いがうかがえる。

＜インターンシップ参加後に企業から受けたアプローチ＞



※「LINEでのフォロー」は、前年、前々年は調査なし
 ※「企業からのアプローチは受けていない」と回答した者を除いて集計

■あると嬉しいインターンシップ参加後のフォロー

- 内定者との懇談会や、より深く事業や社風を知るためのセミナーの開催、就活の相談などができる場などを設けていただけるとありがたい。 ＜文系男子＞
- 実際のオフィスや社食、工場を見学したい。 ＜文系女子＞
- ありがちな定型文メールではなく、インターンシップを通して、自分をどのように評価したかがあると、ちゃんと自分を見てくれていたのだなと嬉しくなる。改善点なども書かれていればなお嬉しいです。 ＜文系女子＞
- 地方学生にとって、交通費支給なしの1日限定セミナーに参加することは負担があるので、交通費の支給やWEBで社員とお話できる等の選択肢があると嬉しい。 ＜文系女子＞
- 自分自身のインターンでの取り組み内容が評価されて、早期選考や内定につながる事ができたら嬉しいと感じる。 ＜理系女子＞

4. 現時点の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が約3割で(29.5%)、前回の11月調査(22.0%)より7.5ポイント増加した。前年同期(25.6%)を3.9ポイント上回っており、就活準備の早期化に伴い、志望業界決定のタイミングも早まっている様子が見て取れる。

志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねたところ(40業界から5つまで選択)、最も多いのは「情報・インターネットサービス」(19.7%)で、ここに「情報処理・ソフトウェア」(17.7%)が続き、前回調査に引き続きIT業界に人気が集まっている。

志望業界は属性によっても異なり、文系男子では「商社(総合)」が首位で、文系女子は「マスコミ」。理系は製造業が上位に多く、理系男子は「電子・電機」、理系女子は「水産・食品」が最も多い。

<志望業界の決定状況>

	全体	(11月後半調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	29.5	22.0	25.6	29.8	21.2	35.8	35.0
なんとなく決まっている	44.4	53.0	44.5	40.2	47.1	45.2	47.6
決まっていない	26.1	25.0	29.9	30.0	31.7	19.0	17.5

<志望業界(上位 20 業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子					
1	情報・インターネットサービス ④	19.7	商社(総合)	20.9	マスコミ	25.0	電子・電機	33.1	水産・食品	33.9
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑩	17.7	銀行	20.6	情報・インターネットサービス	17.7	情報・インターネットサービス	26.0	医薬品・医療関連・化粧品	26.3
3	電子・電機 ②	15.1	情報・インターネットサービス	17.4	銀行	16.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	25.3	素材・化学	20.3
4	素材・化学 ②	14.9	調査・コンサルタント	17.4	建設・住宅・不動産	15.3	素材・化学	22.7	建設・住宅・不動産	20.3
6	水産・食品 ④	14.9	建設・住宅・不動産	16.7	運輸・倉庫	15.3	自動車・輸送用機器	20.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.8
7	建設・住宅・不動産 ⑦	14.5	運輸・倉庫	16.7	ホテル・旅行	15.3	精密機器・医療用機器	17.1	情報・インターネットサービス	15.3
7	調査・コンサルタント ④	13.1	官公庁・団体	15.3	水産・食品	14.9	医薬品・医療関連・化粧品	15.2	官公庁・団体	11.0
8	医薬品・医療関連・化粧品 ①	12.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.0	調査・コンサルタント	12.9	機械・プラントエンジニアリング	14.1	精密機器・医療用機器	9.3
9	マスコミ ⑩	12.7	マスコミ	13.6	商社(総合)	12.9	水産・食品	12.6	通信関連	9.3
10	銀行	12.4	保険	12.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.5	調査・コンサルタント	11.2	電子・電機	8.5
11	運輸・倉庫	11.8	エネルギー	11.1	医薬品・医療関連・化粧品	11.7	エネルギー	10.0	印刷・パッケージ	8.5
12	商社(総合)	11.3	商社(専門)	10.1	官公庁・団体	11.7	通信関連	9.7	調査・コンサルタント	7.6
12	自動車・輸送用機器	11.3	自動車・輸送用機器	9.8	商社(専門)	11.7	建設・住宅・不動産	8.9	エネルギー	7.6
14	官公庁・団体 ⑦	11.2	素材・化学	9.4	素材・化学	10.1	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	7.8	機械・プラントエンジニアリング	7.6
15	エネルギー	9.0	水産・食品	9.1	保険	10.1	鉄鋼・非鉄・金属製品	6.7	商社(専門)	7.6
16	精密機器・医療用機器	8.8	人材紹介・人材派遣	9.1	人材紹介・人材派遣	10.1	運輸・倉庫	6.3	マスコミ	6.8
17	機械・プラントエンジニアリング	8.5	電子・電機	8.4	教育	9.3	官公庁・団体	6.3	自動車・輸送用機器	6.8
18	商社(専門)	8.4	証券・投信・投資顧問	8.4	印刷・パッケージ	8.1	農業・林業・鉱業	5.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.9
19	通信関連	7.7	教育	8.0	エンターテインメント	7.3	印刷・パッケージ	4.5	農業・林業・鉱業	5.9
20	保険	7.6	信用金庫・労働金庫・信用組合	6.6	電子・電機	6.5	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	4.5	運輸・倉庫	5.1
				機械・プラントエンジニアリング	6.5			鉄鋼・非鉄・金属製品	5.1	
				通信関連	6.5			エンターテインメント	5.1	
								その他サービス	5.1	

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

5. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

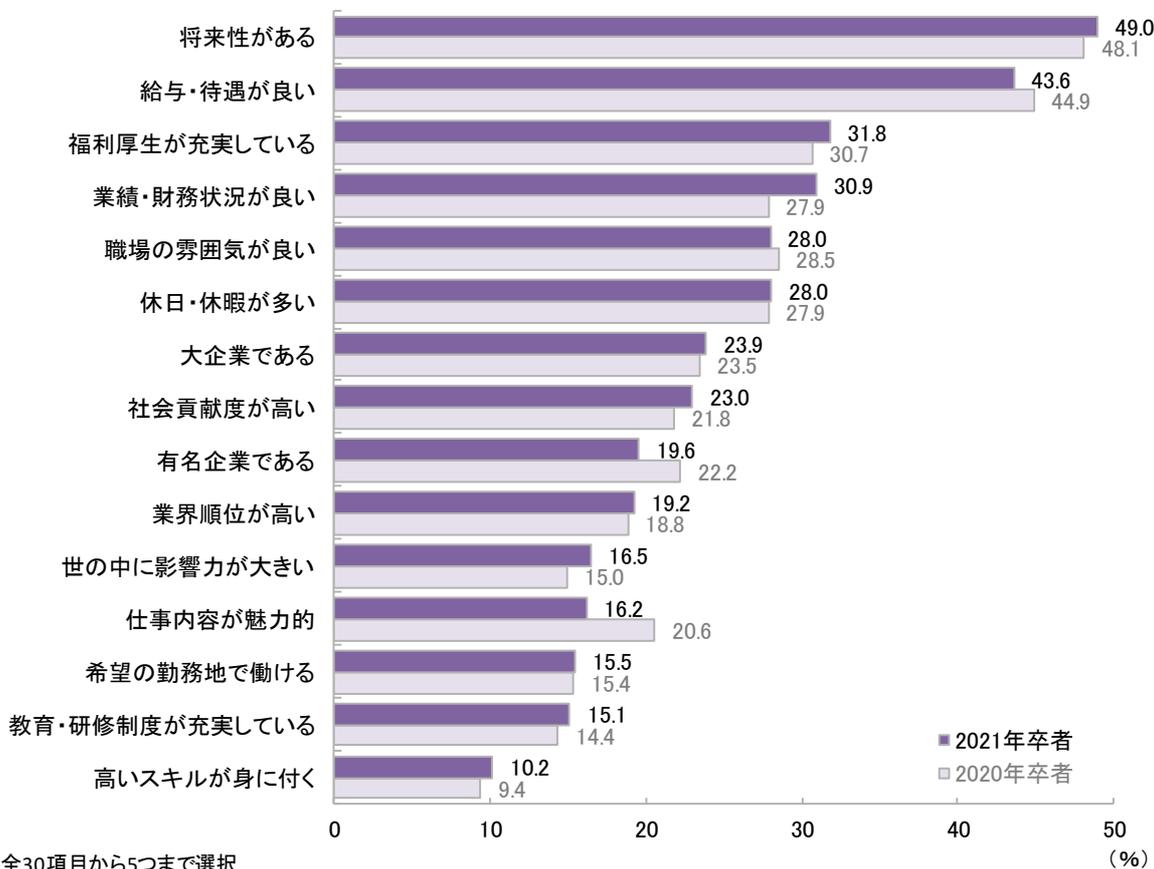
就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらった。

最も多いのは「将来性がある」で、49.0%と約半数が選んだ。今回で 10 年連続 1 位となり、学生の就職先選びにおいて重要な要素として定着していることがわかる。寄せられたコメントを見ると、会社の成長だけでなく、自身の成長が見込める環境、あるいは、潰れそうにない安定性を連想する向きもあり、学生によって捉え方に幅が見られる。

次いで 2 位は「給与・待遇が良い」(43.6%) で、待遇重視の姿勢も引き続き強い。3 位の「福利厚生が充実している」(31.8%) や、5 位の「休日・休暇が多い」(28.0%) も上位項目の常連であり、働きやすさやワークライフバランスも重要な要素として捉えられている。

多くの項目で前年調査と数字に変動がない中、「仕事内容が魅力的」が 20.6%から 16.2%へと低下している点が目立つ。インターンシップがこれだけ隆盛な中ではやや物足りない数字と映る。

＜就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15項目)＞



■企業を選ぶ際に重視したい点

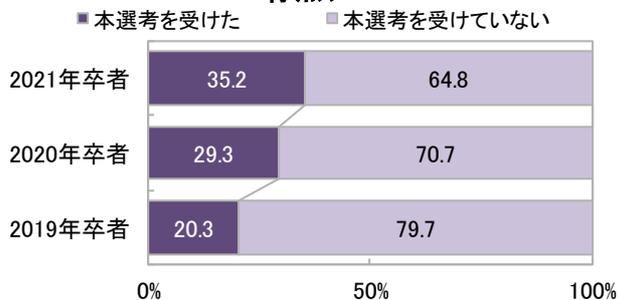
- 安定して自分のキャリアを積んでいける、成長できる企業に入りたいと考えています。 <理系男子>
- できるだけ長く働きたいので、将来性のある会社。 <文系男子>
- 働くことで、いい意味で人に影響を与えられる人材になりたいため、いい環境で自分が成長できる職場であるところを選んでいる。 <文系女子>
- ワークライフバランスを重視しているので、休日や残業、有給休暇の取得のしやすさなどは一番気になります。また自分に合った社風の会社に勤めたいです。 <理系女子>
- 財務状況が良く、社会に対して真摯に仕事をしているかどうかは、働く上で重要な項目だと思う。 <文系女子>

6. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

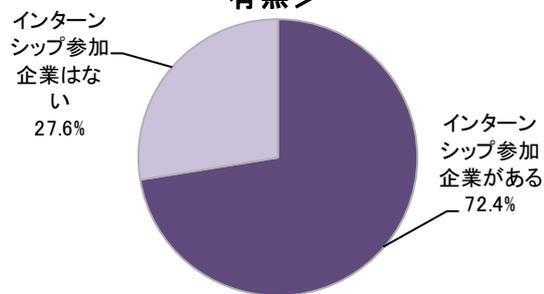
本選考(採用選考)の受験状況を尋ねてみた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が35.2%で、3人に1人以上が早くも本選考の経験を持つことがわかった。この数字は年々上昇している。受験者を分母とした受験社数の平均は2.4社。本選考受験企業の中にインターンシップ参加企業があると答えた学生は72.4%に上り、インターンシップから早期選考へとつながるケースが多いことがここからわかる。

内定状況については、「内定を得た」との回答が7.0%。前年同期(4.7%)を2.3ポイント上回り、内定獲得のペースも早まっている。内定取得者の8割近く(78.2%)が、インターンシップ参加企業から内定を得たと回答した。

＜1月1日現在の本選考を受けた企業の有無＞

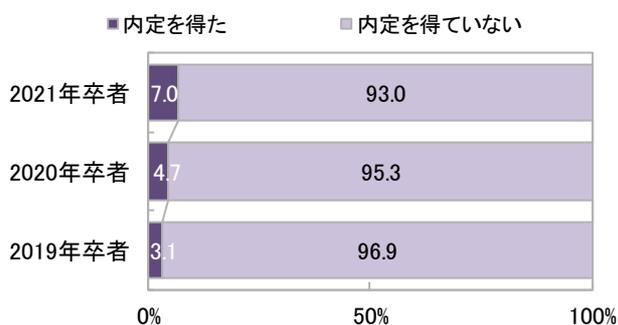


＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



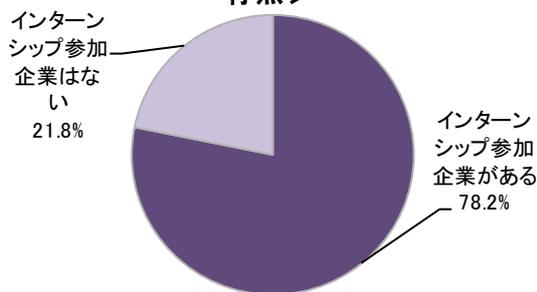
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	35.2%	29.3%	38.5%	37.2%	31.0%	30.1%
本選考を受けていない	64.8%	70.7%	61.5%	62.8%	69.0%	69.9%
選考企業社数(平均)	2.4社	2.4社	3.0社	2.4社	2.0社	1.7社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.1社	-	1.2社	1.0社	1.2社	1.1社

＜1月1日現在の内定の有無＞



*「内定」には、内々定を含む

＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



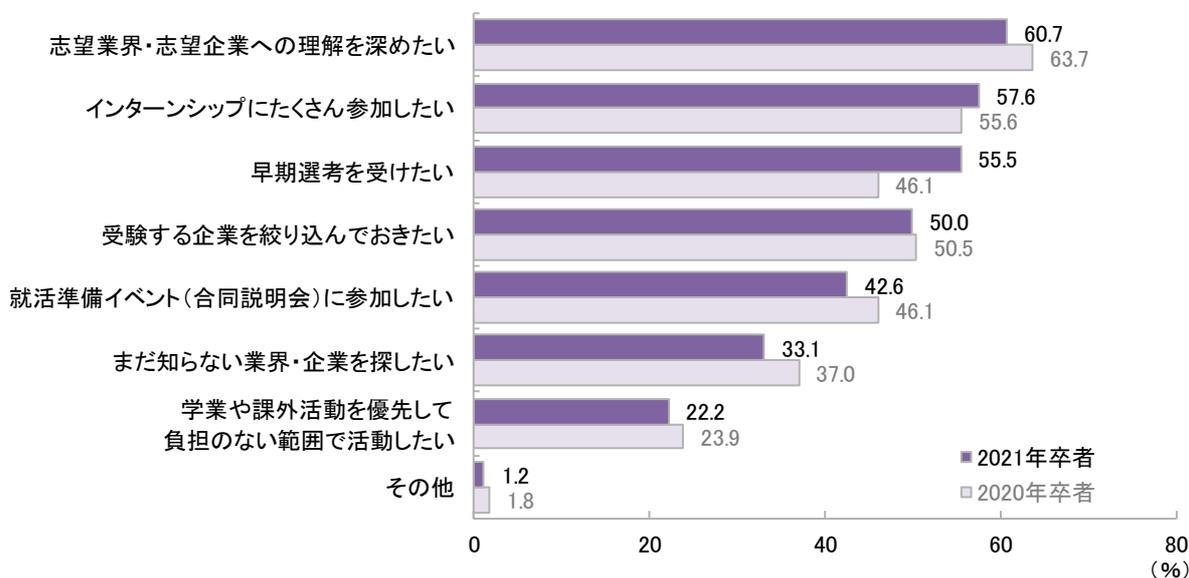
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	7.0%	4.7%	6.3%	7.2%	6.9%	8.4%
内定を得ていない	93.0%	95.3%	93.7%	92.8%	93.1%	91.6%
内定社数(平均)	1.7社	1.4社	2.8社	1.3社	1.1社	1.2社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.2社	-	2.0社	0.8社	0.9社	0.8社

7. 就職活動解禁までの準備の進め方

3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。最も多かったのは「志望業界・志望企業への理解を深めたい」(60.7%)、次いで「インターンシップにたくさん参加したい」(57.6%)、「早期選考を受けたい」(55.5%)が続く。前年に比べ、「早期選考を受けたい」が約10ポイント伸びた。就職活動解禁は3月といえども、3人に1人は本選考を受けているような状況下で(8ページ)、出遅れたくないと焦る学生の姿が浮かび上がる。

一方、「インターンシップにたくさん参加したい」(57.6%)、「就活準備イベントに参加したい」(42.6%)、「まだ知らない業界・企業を探したい」(33.1%)など、就職活動が本格化する前に、できるだけ多くの企業を知りたいと考える学生も少なくないことがわかる。

＜3月の就職活動解禁までの準備の進め方＞



■就活解禁までの準備の進め方

- 就職希望先を絞りすぎず、幅広く検討していきたいので、企業研究や業界研究を継続しつつ、インターンや選考に参加していきたい。 <文系女子>
- 3月以降はエントリーシートの準備等に専念したいため、それまでに企業研究等は確実に済ませておきたい。 <理系男子>
- 面接対策が不十分なので、イベント内のセミナーで学びたいと考えている。 <文系男子>
- 情報収集は進んでいるため、3月解禁までに情報分析・整理と選考対策を積むことが重要だと思う。 <文系男子>
- 面接などで人物像を評価してもらう以前に、学力面の問題で選考に落ちてしまったら間違いなく悔いが残るため、筆記試験の過去問を大量にこなしていきたい。 <文系女子>
- 現時点での志望業界を他業界と比較して、自身の考えを間違いのないものにしたい。 <理系男子>
- 本選考が始まってからは聞けないような話を、今のうちに実際に働く方から聞きたい。 <理系女子>
- 進みたい業界や企業を比較的絞り込んで、より情報を集め、有利に進めていきたい。 <文系女子>
- 志望業界・企業を絞りすぎたと感じているため、他の業界も探す予定です。 <理系女子>
- 研究も本格的に始まって、学業が忙しくなるので、エントリー企業を絞って、オリンピック前に内定を持っておきたい。 <理系男子>
- 世の中の企業のことを少しでも多く知りたいが、学生にとって一番大切なことは学業であり、それを疎かにはしたくないので、就活と学業のバランスをとりながら行動したい。 <文系女子>

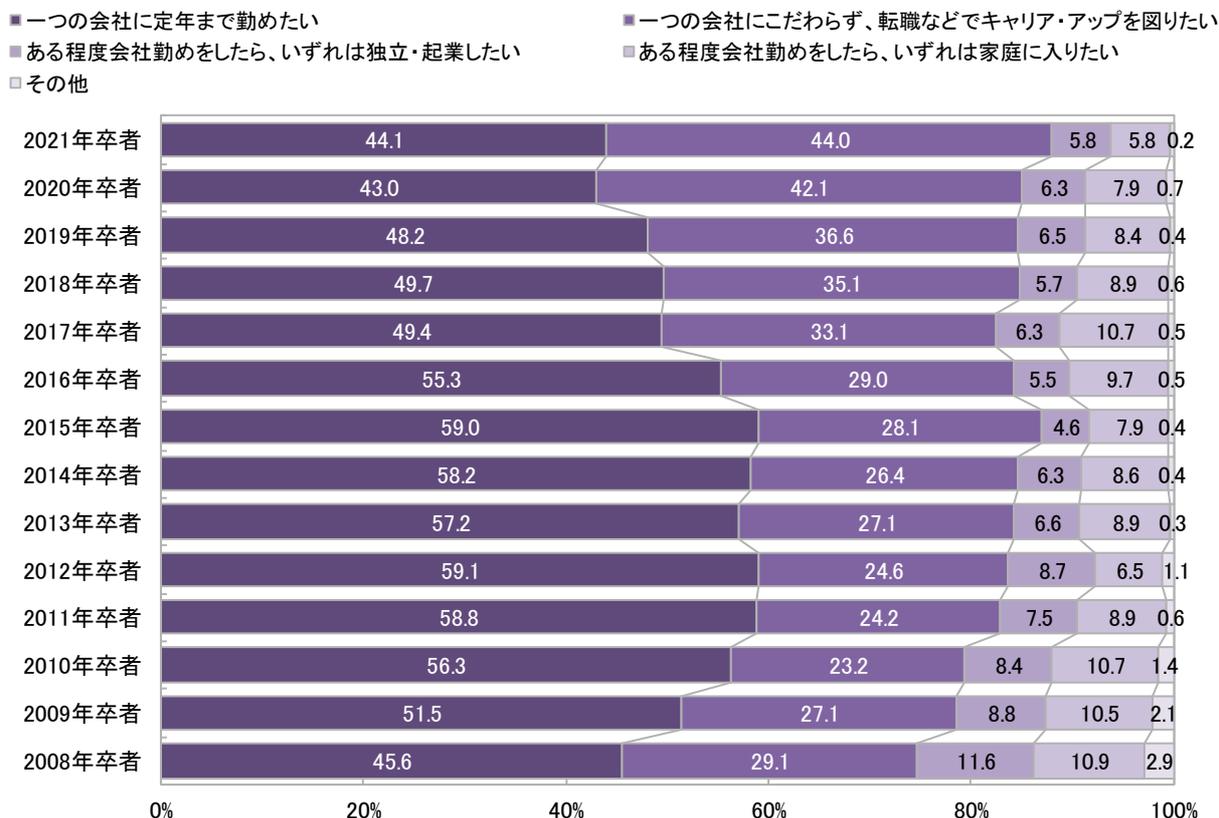
8. 就職後のキャリアプラン

現時点で考える就職後のキャリアプランについて尋ねた。「一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい」が前年調査からポイントを上げ 44.0%となり、比較可能な 2005 年卒以降最も高い数字を更新。「一つの会社に定年まで勤めたい」(44.1%) とほぼ同率となった。

過去のデータを振り返ると、就職環境が厳しい時期は安定志向が高まり、「一つの会社に定年まで」が増加し、就職環境が好転すると減少する傾向が見られる。ここ数年続く売り手市場の雇用環境や、転職に対するポジティブな捉え方(キャリア・アップしたい、自分の価値を高めたい等)が数字に反映されているのだろう。

離転職も視野に入れている学生は、最初に就職した企業に一体どのくらい勤めたいのか。最も多いのは「期間は決めていない」(38.0%) であるが、「10 年以内」(27.4%)、「5 年以内」(25.8%) がそれぞれ 2 割以上おり、特に「5 年以内」は増加傾向だ。一つの会社にとらわれず、柔軟かつ主体的にキャリアを形成していきたい——そうした意識を持つ学生は今後も増えていくものと思われる。

<就職後のキャリアプランの推移>



<最初に就職した会社の予定勤続年数>

